

2023 年度（第 46 期）第 1 回理事会 議事録

日 時：2023 年 11 月 16 日（木）14:00～15:30

形 式：Web 会議形式での開催

出席者：藤野裕士（理事長）、内田寛治、大塚将秀、志馬伸朗、竹内宗之、竹田晋浩、
近藤康博、中根正樹、佐藤暢一、玉木 彰、茂呂悦子（各理事）、
川前金幸、西田 修（監事）

欠席者：平井豊博、石井宣大、吉田健史（理事）

（敬称略）

【開 会】（藤野理事長）

- ・理事会開催に必要な理事の過半数の出席が報告され開会が宣言された。

I. 報告事項

1. 前回理事会・総会議事録の確認・承認（藤野理事長）

- ・前回議事録は、原案どおり承認された。

2. 持ち回り理事会（審議 0 件、連絡 3 件）の確認・承認（藤野理事長）

- ・連絡事項 3 件を確認した。

3. 理事長報告（藤野理事長）

1) 『小児在宅人工呼吸療法マニュアル第 2 版』印税

- ・749,542 円（税込、部数 1,607、電子版 52）が 9/30 にメディカ出版より支払われた。

2) 日本呼吸器学会学術講演会共同企画

- ・第 64 回日本呼吸器学会学術講演会共同企画「ARDS 診療の極意教えます」への参画について承諾した。

3) 呼吸ケア指導士の研修単位の件

- ・日本呼吸ケア・リハビリテーション学会による“呼吸ケア指導士”の研修単位として、
本会の年次学術集会への出席・筆頭演題発表を継続的に認定いただくよう申請した。

4) 令和 5 年度「在宅人工呼吸器に関する講習会」協賛の件

- ・標記講習会への協賛を承諾した。

5) 会員管理システム導入に向けて

- ・日本集中治療医学会で稼働が始まった会員管理システムの部分的導入に向けて、次回
理事会までにシステム会社に本会で利用する仕様にもとづく見積を取得することが
報告された。

4. 事務局からの報告（佐藤理事）

- ・2023 年 11 月 1 日時点の会員数が以下のとおり報告された。

一般会員：1,880 名（Dr 1,158、Ns 260、CE 323、PT 112、他 27）

賛助会員：15 社／年間購読契約：8 件

- ・会員動向は、医師会員は増加傾向にあり、看護師・臨床工学技士・理学療法士はいずれも横ばいで推移している。
- ・一般会員の会費納入状況は、2022 年度が 90.6%、2023 年度が 74.6%である。

5. 学術集会報告、準備状況

1) 第 45 回学術集会（近藤前会長）

2023 年 8 月 5 日(土)・6 日(日)ウインクあいち（名古屋）

「つなぐ ～ニューノーマルへ Connecting the Dots」

- ・本学術集会開催にあたり、理事・監事各位に多大なご尽力をいただいたことに対して近藤前会長からの感謝の言葉が伝えられた。
- ・参加者数は、現地参加＝延べ 1,395 名（2 日間）、オンデマンド含む全参加登録数＝1,926 名（招待・協賛企業関係者含む）であった。
- ・公募シンポジウムと一般演題で 187 題の応募があり、そのなかの 29 演題に「優秀演題セッション」で発表いただいた。さらに最優秀賞を選出し表彰した。
- ・オンデマンド配信は 8/15～9/20 の約 1 カ月間で実施した。
- ・次回の理事会までに収支決算報告を運営事務局に依頼している。

2) 第 46 回学術集会（中根会長）

2024 年 6 月 28 日(金)・29 日(土)天童ホテルほか（山形）「標す」

- ・プログラムについて、特別講演、海外招聘、教育講演、シンポジウム、学会合同企画などの計画の進捗が報告された。協賛企業についても依頼を進めている。
- ・3 会場での開催となるためシャトルバスでの移動を検討している。

3) 第 47 回学術集会（吉田副会長、代理 藤野理事長）

2025 年 8 月 30 日(土)・31 日(日)グランキューブ大阪（大阪）

- ・テーマは策定中で、ホームページは第 46 回会期中に公開予定。

6. 事業報告

1) セミナー事業（大塚理事）

- ・第 52 回日本呼吸療法医学会セミナーの最終参加登録は 920 名。
受講期間は 7/1～31。受講料は 7,700 円（税込）。
- ・医師向けセミナー第 2 回 Refresher コースの最終参加登録は 88 名。
受講期間は 11/1～30。受講料は 12,100 円（税込）。

2) 呼吸療法専門医 2023 年度〈更新・新規〉申請（佐藤理事）

- ・8/1～9/30 の期間で更新 57 名（対象 60）、新規 32 名からの申請を受理。
- ・専門医委員会で書類審査を行い新規 32 名に筆記試験案内。12/2(土)11:30～13:10 に新大阪で実施。本年度から記述問題をなくし客観問題 50 問の出題とするため、従来
の 1 時間半の試験時間を 100 分へと変更する。

7. 各委員会報告

1) 将来計画・財務委員会（藤野委員長）

- ・ 前回の理事会で、広報委員会の設置に向けて多職種を委員として選出することになり、以下の推薦があがった（敬称略）。

野口あすか **Ns** 福岡県済生会福岡総合病院救命センター [茂呂理事推薦]
(呼吸器疾患看護認定看護師／特定行為看護師)

- ・ 次回の理事会までには候補者を決定すべく、理事に推薦を募ることとした。

2) 人工呼吸編集委員会（藤本委員長）

3) 代議員審査委員会（青景委員長）

4) 小児在宅人工呼吸検討委員会（竹内理事）

- ・ 第 46 回学術集会での委員会企画を 11 月末の締切に向けて検討した。
- ・ 『小児在宅人工呼吸療法マニュアル第 3 版』に向けて委員会方針を審議した。

5) セミナー委員会（大塚理事）

- ・ 日本集中治療医学会からの依頼を受けて、日本集中治療医学会 50 周年記念企画「サマーキャンプ in NISEKO」にて本会セミナー委員会がハンズオンセミナー「人工呼吸器」（8 月 25 日(金)13:00～17:00）を担当した。本委員会から講師 8 名（ブース 4 箇所）を派遣し受講生 31 名の参加を得た。活発な質疑応答のもと盛況裡に終了した。
- ・ 来年のサマーキャンプ（in 蓼科）にも招聘されることが内定しており、今回の内容を踏襲して対応を行う。

6) チーム医療推進委員会（大塚理事）

- ・ 会員専用ページで会員同士が意見交換できる掲示板「Joyful Board」の設置に向けて第 45 回学術集會会期中に試用公開を行った。12 月からの本公開を目指して改修中。
- ・ 第 46 回学術集会での委員会企画を 11 月末の締切に向けて検討中。

RST プロジェクト（佐藤理事）

- ・ 第 46 回学術集会の委員会企画で、シンポジウム形式で日本の **RST** の進化を議論する企画を提出するとともに、職種ごとのグループでそれぞれの課題や各施設の取り組みなどを話し合うワークショップ形式の企画案についても申請を検討中。

7) 安全対策・危機管理委員会（中根委員長）

- ・ 『人工呼吸器安全使用のための指針（第 2 版 2011 年）』の改訂に向けて、日本臨床工学技士会（窓口：木村政義様）と日本クリティカルケア看護学会（窓口：濱本実也様）との 3 学会合同で取り組むことについて各学会の承認を得た。
- ・ 今後のスケジュールとして、パブリックコメントを経て 2024 年 3 月に脱稿、2024 年 6 月の学術集会での公開を目指して進める。

8) 専門医委員会（佐藤理事）

9) ECMO プロジェクト委員会（竹田理事）

- ・ 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染状況がいったん落ち着き、COVID-19 対応で得られたデータを盛り込む形で『ECMO・PCPS バイブル』の小規模改訂

を行う案が委員会であがっていることが報告された。

10) 利益相反委員会（竹田理事）

- ・気管吸引ガイドライン改訂において、ワーキンググループからの依頼を受けて各 FQ・BQ の推奨案を評価する 16 名の COI 状況を審議し、改訂に協力した。

11) 社会保険委員会（志馬委員長）

12) 倫理委員会（大塚委員長）

- ・第 46 回学術集会（2024 年、山形）で以下の委員会企画を予定。
「あなたの理解してる「倫理」って間違ってますか？～特に DNAR と ACP をめぐる誤解と混乱を中心に」板井孝壱郎（宮崎大学大学院生命倫理教授）
「事案を題材として倫理的課題を参加者全員で掘り下げるワークショップ（仮）」

13) 学術集会あり方検討委員会（中根委員長）

14) 学術研究推進委員会（志馬理事）

- ・「集中治療と医療の質指標と VAE（略称）」研究については、統計解析を TXP メディカルに委託し、解析を進めている。複数の論文が輩出されることを目標としている。
- ・トロント大学「A survey of when to intubate in hypoxemic respiratory failure」アンケートを、会員を対象にオンラインで実施した（2023 年 10 月）。本アンケートは、侵襲的人工呼吸管理開始の決定に関わる医療従事者を対象とし、挿管・人工呼吸管理開始の決定にかかわる種々の因子を定量評価することを目的としている。
- ・大阪南医療センター呼吸器・アレルギー内科「気管支喘息、COPD 増悪時の吸入療法の実態調査」を、以下 3 学会の会員を対象にオンラインで実施した（2023 年 10 月）。本アンケートは全国的にデータを収集し吸入療法の実態を知ることが目的として、本会主管、大阪南医療センター呼吸器・アレルギー内科（奥田みゆき）研究代表、日本集中治療医学会・日本呼吸器学会との 3 学会合同で実施中（締切 11/20）。本件については、調査結果を機関誌で報告していただくよう依頼する。

15) 自発呼吸アセスメント指針作成ワーキンググループ（中根理事）

16) 気管吸引ガイドライン改訂ワーキンググループ（中根委員長）

- ・ガイドライン改訂において、各 CQ 序文・FQ 本文の内容について 16 名の評価委員による投票を実施した。現在、25 個の CQ について本文の編集・最終調整を行っている。パブリックコメント、理事会承認を経て、可及的速やかに上梓できるよう作成を進める。

17) ARDS 診療ガイドライン作成委員会（竹内理事）

- ・本会・日本集中治療医学会・日本呼吸器学会の 3 学会会員を対象に、本ガイドライン 2026 の作成に向けてパネル会議メンバーの募集を実施した（10 月 6 日～31 日）。その結果、49 名の応募があり現在委員会で選考を進めている。
- ・『ARDS 診療ガイドライン 2021 詳細版（PDF）』を 11 月 6 日に 3 学会のホームページ上で公開した。

8. その他

1) 2023 年度理事会日程

- ・第 2 回理事会 (Web 形式) 2 月 22 日(木)14:00～15:30
- ・第 3 回理事会 (Web 形式) 5 月 23 日(木)14:00～15:30
- ・第 4 回理事会 (集合形式、山形) 6 月 27 日(木)14:00～15:00
- ・上記の予定を確認した。

II. 審議事項

第 1 号議案 委員会規則変更・委員会人事の件 (大塚理事)

1) チーム医療推進委員会 規則：以下の変更が承認された。

第 2 条 組織 (1) 委員会は委員長 1 名、委員 10 名以内で構成する。

2) チーム医療推進委員会 今期委員に以下の委員追加が承認された (敬称略)。

五十嵐義浩 CE 聖マリアンナ医科大学病院臨床工学技術部

第 2 号議案 代議員審査・役員選挙の件 (佐藤理事)

- ・2024 年の代議員審査ならびに役員選挙の実施に向けてスケジュール案が事務局より提出され承認された。あわせて現理事・監事の任期についても確認を行った。

第 3 号議案 呼吸療法専門医 更新審査結果の件 (佐藤理事)

- ・専門医委員会で審査した 57 名の更新が承認された。
- ・呼吸療法専門医の更新を「希望しない」場合は、その理由を記載する入力欄を設けることとした。

第 4 号議案 機関誌『人工呼吸』誌名変更の件 (竹内理事)

- ・近年、機関誌の投稿数が減少傾向にある。投稿数を増やす方策の 1 つとして、機関誌名を『呼吸療法 (旧 人工呼吸)』と変更する案について委員会からあがった。「人工呼吸研究会」として発足した本会は、呼吸療法全般を扱う「日本呼吸療法医学会」へと改称した経緯があり、その流れに沿ったものといえる。
- ・機関誌名の変更については社員総会での議決事項ではなく、本理事会で第 41 巻第 1 号からの適用が承認された。委員会名もそれにともない「編集委員会」へと変更する。
- ・この雑誌名がすでに使用されていないかを確認し、本会が使用することに問題がないことを確認したうえで、変更の手続きを進めることとした。(理事会後、当該企業の実情を取り付けた。)

第 5 号議案 ARDS 診療ガイドライン 2026 アウトソーシングの件 (竹内理事)

1) 日本医学図書館サービスに委託：

- ・新規 CQ の文献検索。PICO の検索キーワードをもとに検索式作成補助～検索のサポート。費用 10CQ で 7 万円 (30CQ で 21 万円)。

2) 国際医学情報センターに委託：

- ・文献複写、文献評価支援、文献執筆支援、その他（検索式～一次スクリーニングは自前、一次スクリーニングは Rayyan で前回同様に行う、2 次スクリーニング以降のサポートが効率的と評価される）。費用は 507 万円(概算見積、変動見込み)。
- ・日本呼吸器学会・日本集中治療医学会・日本呼吸療法医学会の 3 学会が合同で制作する『ARDS 診療ガイドライン』の 2026 年改訂に向け、各種業務をアウトソーシングし、業務・経費の双方の面で委員会の負担を軽減させる方針で進めていることが報告された。2026 年版では執筆内容を厳選し、2021 年版の 1/2 程度の分量で制作する方針が共有されている。
- ・日本集中治療医学会・日本呼吸器学会での審議にも注視しつつ、本会として上記の方針を承認した。

第 6 号議案 オンラインセミナーの受講料の件（大塚理事）

- ・コロナ禍以降、2022 年度から年間 3 回体制となり、大幅の黒字収支となった。2023 年度も医学会セミナーは同様に黒字となっている。当面はオンラインセミナーが続くため、学会全体の財政状況を考慮しつつ各セミナーの受講料を下げる案が委員会より上申された。
- ・セミナーでの黒字分は学会の有益な事業に使用するため、受講料は据え置きとすることとした。今後さらに黒字分が増加する場合はその時点で再検討する。

第 7 号議案 関連学会・関連研究会への単位認定・協賛・後援の件（川前監事）

- ・関連学会・研究会への単位認定・協賛・後援を積極的に行う提案があった。
- ・一連の会合をリストアップし、依頼を受けた協賛・後援案件を理事会でスムーズに精査・審議できる体制を整え、承認されたものについては開催概要を会員にメール配信することとし、その他の事務作業が生じないことを条件に承認された。

第 8 号議案 小児在宅人工呼吸検討委員会の編成・人事の件（竹内理事）

- ・在宅人工呼吸器の普及が急速に拡大し、小児在宅の分野は重要な領域になりつつあるが、この領域に携わる会員がそもそも少ないため代議員から選出することになっている委員長の指名にも難渋している。
- ・現在、医師・看護師・臨床工学技士・理学療法士各 1 名、計 4 名の委員会という状況で、第 3 版の制作を進めるには現委員がコアとなって継続的に活躍し、委員を拡充していける環境整備が必要である。
- ・定款施行細則第 4 条で、理事会が必要と認めた者は代議員の要件を問わないとする

記載もあり、本委員会の位置づけについて当面は現行の体制を維持することとした。

Ⅲ. 2023 年度上半期会計報告 （佐藤理事）

<収 入>

- ・年 会 費：医師 868 名、多職種 534 名、合計 1,402 名分（74.6%）の会費収入を計上。
- ・事 業 費：7 月開催の第 52 回セミナーの参加費のみ計上。11 月の Refresher コース 3 月の Basic コースは下半期に計上予定。
- ・専 門 医：更新審査料 57 万円（57 名）、審査料（新規）32 万円（32 名）が納入。
- ・研修施設：更新審査料 64 万円（32 施設）、審査料（新規）8 万円（4 施設）が納入。
- ・広 告 費：1 号はユーザーレポート 1 社＋広告 1 社。2 号は下半期に計上予定。
- ・機 関 誌：ユーザーレポートの別刷が 1 社から発注があり計上（コヴィディエン、39-2 号、2,000 部）
- ・書籍販売：小児在宅第 2 版、68 万の印税収入あり。

<支 出>

- ・機 関 誌：1 号 107 頁分計上。
- ・事 業 費：医師向けセミナーは下半期に計上予定。
- ・委員会費：おおよそ予定どおり。
- ・学術集会：収入も支出も未計上。年内に収支報告が届く予定。
- ・社員総会：会場費を計上。
- ・委 託 費：本年度分を支払。
- ・事 務 費：セミナーテキストの封筒作成により支出増。